



WABA | 世界母乳育児週間
2019年8月1-7日

「世界のスタンダードは、だれも取り残されないこと、働きがいのある人間らしい仕事、持続可能な経済成長、そして皆が働ける社会であり、それらは必須と言えます。
働きがいのある人間らしい仕事をするためには、働く女性が仕事と母乳育児を両立できるよう保護・推進・支援する、子育て中の親に対する社会保障が必要です」
世界母乳育児行動連盟 (WABA)

母乳で育てることで、母親も子どもも病気になるにくく死亡率も減ることがわかっています。母乳を飲んだ子は認知能力が高くなることから、支援不足で母乳育児ができないことで年間 **3020 億米ドル**の経済損失につながります。母乳で育てられる環境を作るために投資する（財源支出する）ことは、大きな見返りがあります。投資によって、より多くの命を救えるようになり、個々人と国全体の健康も改善し社会的経済的にもさらに発展することが期待されます。国際的に生後 **6 ヶ月間は母乳のみを与え、その後は補完食（離乳食）をあげながら 2 歳まで母乳で育てることが推奨されているものの、母乳のみを飲んでるのは生後 6 ヶ月未満の赤ちゃんの 40%に過ぎず、2 歳まで母乳を飲み続けている割合は 45%しかありません。国際的に推奨されているように母乳育児を継続し、そのありかたを広げるためには、働いている親を支援する必要があります。**

ジェンダー差別などの不平等や働く親への支援不足は、**持続可能な発展**の阻害要因になります。世界的にも、母親の出産後の職場復帰が、母乳育児を早くにやめる大きな理由の1つとなっています。**8 億 3 千万人以上の働く女性には、十分な母性保護がありません。世界の労働力の半分以上(61.2%)が非公式経済で生計を立てていて、母性保護の政策ではカバーされていません。非公式経済で働く授乳中の労働者は、職場が遠かったり、休みなく長時間労働だったり、危険な労働環境だったり、さらなる障壁にぶつかります。有給労働の大変さは、女性が育児や介護などを一手に引き受けるという前提での不均等な分担で、さらに大きくなります。**

さらに、**国際労働機関(ILO)**によれば、調査をした **170 カ国中たった 78 カ国**にしか父親の休業制度がありません。父親の休業制度がないことで、出産後に父親がパートナーや子どもたちと過ごせる時間が限られます。そのうえ、児童保健・社会福祉サービスは、しばしば父親を無視したり除外したりしていて、母乳育児支援についての情報を父親に伝えていません。**2019 年の世界母乳育児週間は、母乳育児を保護・推進・支援するために、労働とジェンダー間の不平等に焦点を当てています。**

世界母乳育児週間は、母乳育児やそれに関連する課題に対して、情報提供し、揺るぎないものとし、協働し、啓発することを目的として、**世界母乳育児行動連盟(WABA)**がコーディネートしているキャンペーンです。**2019 年の世界母乳育児週間#WBW2019**のテーマは、「**親をエンパワーし、母乳で育てられる環境を**」です。

私たちは次の権利の重要性を訴えます。

- 子育て中の親に対する**社会保障制度**
- 公的(フォーマル)セクター・非公式(インフォーマル)セクター*にかかわらず、子育て中の親にやさしい職場
- 子育て中の親にやさしい価値観とジェンダー間で公平な社会規範

【訳注】非公式(インフォーマル)セクターとは、家族、近隣、地域社会、ボランティア団体、NPO など公的に制度化されていない集団、組織のこと。家庭内の労働・路上販売・農業など、監督や統計の対象になっておらず、労働法の対象から外れている場合が多い。



子育て中の親に対する社会保障制度

子育て中の親に対する社会保障とは、財政措置による母親だけでなく父親も取得できる有給休業、母乳で育てやすい柔軟性のある職場の方針、親や家族への国からの現金給付制度などです。子育てや介護などの負担をもっと両性間で均等に分担させながら母親の権利を守る政策は、ジェンダー間の公平性（真の平等）とエンパワメントを達成するためには不可欠です。



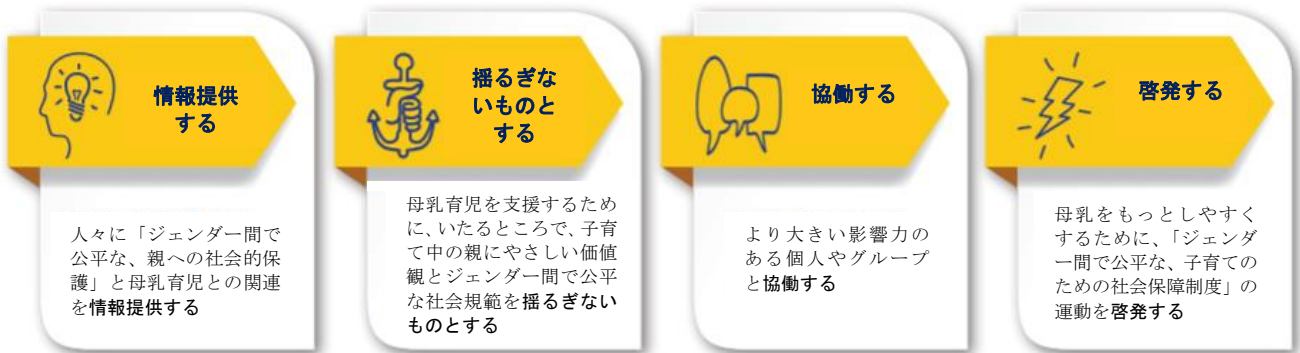
公的(フォーマル)セクター・非公式(インフォーマル)セクターにかかわらず、 子育て中の親にやさしい職場

公的(フォーマル)セクターにおいて、家族持ちにやさしい職場では、有給の休業、授乳したり搾乳した母乳を保存したりするための施設を持つプライベートな空間、母親が母乳を続けられるように職場内もしくは近隣に経済的負担なく利用できる保育所、柔軟な就業時間を提供します。非公式(インフォーマル)セクターでも最適な母乳育児が支援されるように、労働者が認められ国の法律で保護されるように働きかけるべきでしょう。



子育て中の親にやさしい価値観とジェンダー間で公平な社会的規範

子育てのチームに父親(パートナー)を含める「ジェンダー間で公平な子育て」は、子どもにも親にもいいことがあります。父親(パートナー)は、母親の望んでいることや必要としていることに敏感になることで、母乳育児を支援しながら一緒に子育てをしていく方法を学ぶことができます。カップルは母乳育児の目標を互いに了解し、特に母乳育児の困難にであったときに、お互いにしっかりコミュニケーションを取る必要があります。



世界母乳育児週間中もその後も、このキャンペーンの意識を広めるために、ウェブサイトにある資料を使ってください(世界母乳育児週間パンフレット、ソーシャルメディアキット、メディアキット)。働く親が利用する、子育て中の親に対する社会保障制度を改善するために、国別の休業・授乳時間ツールを使ってください。親をエンパワーし、母乳で育てられる環境を現在、そして未来のために協働しましょう!



世界母乳行動連盟(WABA)は、世界規模で母乳育児を保護・推進・支援する個人と組織の世界的ネットワークです。WABAの活動は、「イノチェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク(連結)」、「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づいています。WABAは、国際連合児童基金(UNICEF)の諮問資格を有し、また、国連経済社会理事会(ECOSOC)の特殊協議資格をもつNGOです。WABAは世界母乳育児週間のキャンペーンを毎年コーディネートしています。WABAは多くの団体や個人と密接に協働しています。WABAのパートナーは、母乳育児医学アカデミー(ABM)、乳児用食品国際行動ネットワーク(IBFAN)、国際ラクテーション・コンサルタント協会(ILCA)、ラ・レーチェ・リーグ・インターナショナル(LLLI)、国際連合児童基金(UNICEF)、世界保健機関(WHO)などの国際団体です。